

令和6年度 施策評価シート

基本目標		地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	210	多様な都市機能が調和したまちをつくる
施策	211	職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める
施策の目標	多様な都市機能が調和したまちとなるため、職・住・学・遊の調和する総合的・計画的な土地利用が進み、地域の特性に応じたまちづくりのルールが確立することで、誰もが快適に活動をしています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「地域の特色を生かしたまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				50.0%					63.0%
実績	47.2%				61.0%					
指標名	地区整備計画区域面積									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				97.0ha					99.0ha
実績	85.9ha				92.2ha					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
<p>「地域の特色を活かしたまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合について、目標を達成するためには、文花地域を中心に、大学・地域・区が緊密に連携し、魅力的な大学のあるまちづくりを進めていく必要がある。連携を行ううえでは、区民が気軽に大学の活動に参加できる仕組みづくり、環境づくりが極めて重要である。</p> <p>また、大学の知を活用した最先端の研究や社会実験等を通じて、多様な人材や投資を惹きつける、魅力あるエリアとなるよう整備を進めていく必要がある</p>	R3	73,104
	R4	86,653
	R5	84,264

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
A	千葉大学やIU 情報経営イノベーション専門職大学等の知見を活かした連携を通じて、「大学のあるまち」として、区や地域を巻き込んだ公民学の連携による特色のあるまちづくりを進められ、成果が期待できる。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
IU 情報経営イノベーション専門職大学の開学及び千葉大学墨田サテライトキャンパスの開設に伴い、大学の知見を最大限活用して地域課題の解決を図る必要があり、緊密に連携すると共に、必要な資源の投入も不可欠である。	
【今後の具体的な方針】	
区・千葉大学・IU 情報経営イノベーション専門職大学・関係団体等により構成される公民学連携組織「アーバンデザインセンター(UDC)すみだ」が中心になり、令和5年3月に策定した大学のあるまちづくり未来ビジョンをもとに、大学のあるまちづくりを一層推進していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
1	大学のあるまちづくりの推進	84,264	13,619	97,883	30	現状維持
					48	令和5年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

令和6年度 事務事業評価シート

施策	211	職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める	部内優先順位		
事業名	大学のあるまちづくりの推進		1		
目的	令和2年度のIU 情報経営イノベーション専門職大学の開学、令和3年度の千葉大学墨田サテライトキャンパスの開設を契機に、両大学が有する人的資源及び知的資源を活用し、地域と大学が協働して地域課題・社会課題の解決に取組む「大学のあるまちづくり」を進める。		主管課・係(担当)		
			行政経営担当		
			3714		
対象者	全区民、大学、区内事業者等				
根拠法令 関連計画	文花地区まちづくり方針、大学のあるまちづくり未来ビジョン				
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	2名
事業内容	<p>1 大学のあるまちづくりの推進</p> <p>(1)千葉大学・IU 情報経営イノベーション専門職大学との事業連携に係る調整</p> <p>(2)アーバンデザインセンター(UDC)すみだの運営支援</p> <p>(3)文花地区未来ビジョン策定に向けた検討</p> <p>2 大学整備用地全体の調整</p> <p>キャンパスコモン・あずま百樹園の再整備に係る調整</p> <p>3 千葉大学関係事務</p> <p>(1)土地・建物賃貸借契約に係る各種事務(大学との調整)</p> <p>(2)建物維持管理(法令点検・リース等)</p>				
経過	開始年度	平成20年度～	終了予定	未定	
	<p>平成20年:第4回定例会(企画総務委員会)において、「4年制の総合大学」を誘致することを正式に表明</p> <p>平成23年:学校跡地に対する大学誘致の公募を実施→「該当校なし」との結果</p> <p>平成24年～:関東近郊の大学に対し、進出意向のアンケートを実施</p> <p>平成29年3月:国立大学法人千葉大学と「包括的連携に関する協定」を締結</p> <p>平成29年12月:学校法人電子学園と「包括的連携に関する協定」を締結</p> <p>平成30年～:「旧すみだ中小企業センター改修基本・実施・解体設計」の実施</p> <p>令和2年4月:学校跡地北側に「IU 情報経営イノベーション専門職大学」が開学</p> <p>令和2年7月:国交省官民連携都市再生推進事業に採択(～令和4年度)</p> <p>令和2年～:「キャンパスコモン・あずま百樹園再整備基本・実施設計」の実施</p> <p>令和3年3月:墨田区、国立大学法人千葉大学、学校法人電子学園と「包括的連携に関する三者協定」を締結</p> <p>令和3年4月:旧すみだ中小企業センターの改修が完了し、「千葉大学墨田サテライトキャンパス」が開設。公民学連携組織「アーバンデザインセンター(UDC)すみだ」の設立。</p> <p>令和3年5月:東京都エリアリノベーション推進支援事業に採択(～令和7年度)</p> <p>令和4年3月:IUの新たな教育研究拠点「すみだメディアラボ」が開設。墨田区、学校法人電子学園、BSよしもと株式会社の三者で「DX推進に関する連携協定」を締結。</p> <p>令和5年3月:千葉大学・IU両大学の未利用地をあずま百樹園に編入し、「キャンパスコモン」として、整備が完了。</p> <p>令和5年10月:墨田区、台湾デザイン研究院、国立大学法人千葉大学の三者で「事業連携に関する協定」を締結。</p> <p>令和5年12月:「一般社団法人アーバンデザインセンターすみだ」(一社)UDCすみだの設立。</p> <p>令和6年3月:(一社)UDCすみだと「墨田区における大学のあるまちづくりの推進に係る連携協定」を締結。</p>				
議会質問の状況	<p>令和2年3月(企画総務委員会)</p> <p>(福田委員):IUには芝生広場があるが、ここは地域に開放してくれるのか。新しい隅田公園のようにファミリーでも集えるような気軽に入れる場なのか。</p> <p>(企画経営室参事):令和2年4月以降は地域に開放していくと聞いている。周辺には塀がなく、誰でも自由に入れるのがコンセプトであり、公園のように気軽に使えるようになるが、学校施設ではあるため、今後ルール作りが必要になる。エリア全体として憩いの場として活用できるエリアにしたい。</p>				
	<p>令和3年3月(企画総務委員会)</p> <p>(しもむら議員):コロナ禍において、IUはオンラインでの授業を行っているとのことだが、千葉大学の動きはどうなっているのか。</p> <p>(企画経営室参事):千葉大学もオンライン授業が中心だと聞いている。ただ、このサテライトキャンパスのコンセプトは生活の全てをシミュレートするというものであることから、フィールドワークや工作機器を使用した実習など、対面とオンラインとをバランスよく配置するような形だとも聞いており、墨田キャンパスも徐々に活用されていく。</p>				
	<p>令和4年3月(企画総務委員会)</p> <p>(加納委員):すみだメディアラボにおいて、BSよしもとはどのように関わっているのか。</p> <p>(企画経営室参事):地方創生をテーマにしたコンテンツ制作を行っている。ただし、すみだメディアラボはIUの附帯施設であり、最先端のメディア開発あるいは教育コンテンツ、社会連携の拠点となっている。今後、本区との連携の中で、どのようにすみだの魅力を発信していくかなど、協議していきたい。</p>				
その他特記事項	<p>令和6年3月(企画総務委員会)</p> <p>(こばやし委員):3月10日に開催された「春のキャンパスコモン」イベントは今年度の区切りになるが、一年間の総括としてどのように捉えているか。</p> <p>(行政経営担当課長):イベント当日はIUの学生による企画や地域の関係団体の参加により、延べ約7500名が来場した盛況なイベントとなった。この間、令和5年12月には一般社団法人アーバンデザインセンターすみだを設立し、キャンパスコモンの維持管理を行う方針としている。今後、公民学それぞれの主体が資源を持ち寄って地域活性化に向けて取り組みを推進していく。</p>				

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		976,668	2,566,414	82,905	118,994	85,802	96,666
A.決算額（令和6年度は見込み）		926,325	2,527,311	73,104	86,653	84,264	96,666
財源	国		10,000	5,000	5,000		3,000
	都			6,468	7,544	14,647	13,200
	その他			32,493	66,159	69,617	80,466
一般財源		926,325	2,517,311	29,143	7,950	0	0
執行率（%）		94.8%	98.5%	88.2%	72.8%	98.2%	100.0%
B.人コスト		11,359	11,469	14,953	13,086	13,619	
総事業決算額（A+B）		937,684	2,538,780	88,057	99,739	97,883	
予算書P（令和6年度）	82、86	執行実績報告書P（令和5年度）			21、25		

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	大学のあるまちづくり関連謝礼	600	報償費	大学のあるまちづくり関連謝礼	827	報償費	大学のあるまちづくり関連謝礼	700
旅費	職員旅費	110	旅費	職員旅費	677	旅費	職員旅費	645
需用費	消耗品購入	335	需用費	消耗品購入	199	需用費	消耗品購入	100
委託料	大学との連携委託	40,258	委託料	大学との連携委託	40,166	委託料	大学との連携委託	48,400
負担金補助及び交付金	UDCすみだ活動支援補助金	7,913	負担金補助及び交付金	UDCすみだ活動支援補助金	13,083	負担金補助及び交付金	UDCすみだ活動支援補助金	13,080
委託料	保守点検委託	3,727	委託料	保守点検委託	4,265	委託料	保守点検委託	6,455
使用料及び賃借料	モデルショップ機器等の借上	21,072	使用料及び賃借料	モデルショップ機器等の借上	21,786	使用料及び賃借料	モデルショップ機器等の借上	21,786
工事請負費	キャンパスコン隣接地復旧工事	12,641	工事請負費	キャンパスコン隣接地復旧工事	3,263	工事請負費	キャンパスコン隣接地復旧工事	5,500

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	区内における大学等の設置施設数				単位	棟
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		-	R7	目標	1	2	3	3
				実績	0	0	0	0
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3	3	4	4	4	4
	実績	1	4	4	4			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	国立大学法人千葉大学と情報経営イノベーション専門職大学のほか、将来活用用地(旧西吾孺小学校跡地)に更なる施設の誘致を想定していたため、活動指標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	区・地域と大学の連携活動				単位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
40		R7	目標	-	1	3	5	
			実績	0	6	7	46	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		15	20	25	30	50	55	
実績	27	28	35	48				
指標の選定理由及び目標値の理由								
地域経済の活性化や地域の賑わいを創出するためには両大学が区内で活発な連携活動が行われていることが不可欠であるため、大学による区内での連携活動数を成果指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	区の課題解決に向けて千葉大学、情報経営イノベーション専門職大学の知見を活用するとともに、区や地域を巻き込んだ公民学の連携をより一層充実させる。あわせて、令和6年度には公民学連携担当も設立されたため、「民」を巻き込みながら、大学のあるまちづくりを一層推進する。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> 千葉大学、情報経営イノベーション専門職大学との事業連携に関する調整 UDCすみだとの連携 大学のあるまちづくり事業に関する啓発

令和6年度 補助金評価シート

補助金名称	アーバンデザインセンターすみだ活動支援補助金	主管課・係（担当）
根拠法令	アーバンデザインセンターすみだ活動支援補助金交付要綱	行政経営担当
補助概要	区が進めている「大学のあるまちづくり」を推進するため、iU 情報経営イノベーション専門職大学の開学及び千葉大学墨田サテライトキャンパスの開設を機に区内に設立された公民学連携組織「アーバンデザインセンターすみだ（UDCすみだ）」に対して補助金を交付する。	3714
目的	公民学連携組織「UDCすみだ」に対して補助金を交付することにより、UDCすみだの活動を促進し、区が進めている「大学のあるまちづくり」を推進する。	
対象	全区民、大学、区内事業者等	
基準	区独自基準	
補助条件	<p>補助金の交付対象とする事業は、UDCすみだが発行する次に掲げる事業とし、補助金の額は、予算の範囲内において、区長が定める。</p> <p>(1) 公・民・学の連携によるまちづくりの推進 (2) 大学との協働による人材育成及び学習機会の創出 (3) 大学の知を活かした先進的な実証実験及び新規事業の創出 (4) 大学のあるまちづくり未来ビジョンの策定及び推進 (5) その他区長が適当と認める活動</p>	
経過	開始年度	令和3年度～
	終了予定	未定
	令和3年4月：公民学連携組織「アーバンデザインセンターすみだ（UDCすみだ）」設立 令和3年5月：東京都エリアリノベーション推進支援事業採択 令和3年10月：アーバンデザインセンターすみだ活動支援補助金交付要綱制定 令和5年12月：「一般社団法人アーバンデザインセンターすみだ」（（一社）UDCすみだ）の設立。 令和6年3月：（一社）UDCすみだと「墨田区における大学のあるまちづくりの推進に係る連携協定」を締結	
議会質問の状況	令和3年6月（企画総務委員会） （加藤委員）：UDCすみだへの区民参加という部分が少し薄い印象を受けている。区民との連携や、大学の知見を区民や区民活動に対して提供していくという視点での活動について、今後どうしているのか。 （企画経営室参事）：コロナ禍において、UDCの持ち味であるワークショップ等を人を集めて実施することが難しい状況であるが、UDCすみだの方に自分もまちづくりに参画したいという区民の方々から個別に問合せが来ており、スタッフとして加わっていただくことを検討している。理念を共有できる参加者を増やし、多くの区民あるいは団体の方と協働を進めていきたいと考えている。 令和6年3月（企画総務委員会） （佐藤委員）：UDCは政策連携協定に基づき、何をやるようとしているのか。 （行政経営担当課長）：3月10日に墨田区とUDCが連携協定を締結した。通常の公園維持管理だけでなく、千葉大学・iU・地域も含めて管理をしていく。千葉大学の園芸の知見・養蜂との連携、iUとはデジタルを使用した植栽管理、健康につながる取り組みも含めて利活用を含めた維持管理をお願いしたいと考えている。	
その他特記事項		

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）				10,000	9,000	13,144	13,000
決算額（令和6年度は見込み）				7,121	7,913	13,083	13,000
財源	国						
	都			6,468	4,794	5,897	6,500
	その他						
一般財源		0	0	653	3,119	7,186	6,500
執行率（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	71.2%	87.9%	99.5%	100.0%

補助金の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	公式SNSの発信件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		300	300	目標	-	-	-	-
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	-	200	225	250	270	300
		実績		199	218	206		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域の方々と協働して大学のあるまちづくりを進めるためには、UDCすみだの活動状況を区民や事業者の方へ広く周知し、興味を持ってもらう必要があるため、公式SNS(Twitter、Facebook)の発信件数を活動指標とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	区・地域と大学の連携活動				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		40	R7	目標	-	-	-	-
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		-	20	25	30	50	55	
実績			28	35	48			
指標の選定理由及び目標値の理由								
大学のあるまちづくりを推進するためには、UDCすみだを中心となって両大学との活発な連携活動が行われていることが不可欠であるため、大学による区内での連携活動数を成果指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	UDCすみだが自立した運営体制を確保し、公民学連携のプラットフォームとして、区や地域を巻き込んだ大学のあるまちづくりを推進する必要がある。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・UDCすみだの自立した運営体制の確保 ・大学のあるまちづくり事業に関する啓発